

27年ぶりの社長交代。長期ビジョンで目指す「インフラソリューションコンサルタント」の実現に向け、近年需要が高まるインフラDXやスマートシティーといった新たな領域の強化を重要課題に位置付ける。技術分野は道路や河川といった各部門の連携を促し、多様な社員のシナジー（相乗効果）によって強みである商品ラインアップのさらなる拡充につなげる。

——就任の抱負を。
「前社長は38歳で社長に就任した時、オンリーワンのインフラソリューションコンサルタントを目指すことを誓ったという。西日本で一番の会社になることは達成できたが、最終目標に向けては道半ばだ。これを実現してほしいと、前社長からバトンを渡されたのだと受け止めている。社長を務められる期間は限られているが、少しでも目指す姿に近づき、次の社長へ良い形でバトンを渡したい」

多様な社員のシナジーに期待

イト日本技術開発

きん せいかん
金 声 漢 氏

——経営課題は。

「都市・環境分野を伸ばさなければ、長期ビジョンで掲げる『次世代創造企業』にならない。この分野を強くしていきたい。また、プロポーザルの特定率が低く、受託が少ない。これは新しいことに取

り組むマインドの不足が背景だと考えている。社員には『新しいことに挑戦し、会社を変えていこう』と訴えていく」

——強化する分野は。

「商品ラインアップの多さは業界のトップ企業にも負けないと自負している。道路・構造や河川・港湾、耐震・保全など各部門をさらに強化するとともに、部門間の連携を促して新しい取り組みに素早く対応する。当社の多様な人材も強みの一つ。彼らがシナジーを発揮し、多様な商品を生み出すことで、もっと良い提案や営業にもつながられると期待している」

——働き方の変化も求められている。
「東京事業所では出勤と在宅勤務のハイブリッドワークの導入を予定する。働く場所の自由度を高めていく。生産性向上に向けては、社内のリニューアルの最適化を目的に大規模なシステム導入を進めており、年度内に本格稼働する。社内一丸となってシステムを使い倒し、仕事の流れを変えていく」。

1987年名古屋大学大学院工学研究科修了、日本技術開発（現イト日本技術開発）入社。2020年取締役兼常務執行役員防災保全事業部長、21年6月同兼常務執行役員管理本部長、同8月同企画本部長、23年6月常務。趣味はおいしいものを食べることに車の運転。愛知県出身、60歳。



新社長

——海外事業の方針は。
「長期ビジョンで目指している姿を達成するには、海外分野で大きな方針転換が必要だ。その一環として、タイの

（8月8日就任）

